

SYMPOSIA

7

難治性疾患の和漢薬治療—強皮症をめぐる

8月31日(日) 14:20～16:20 C会場 (国際交流会館ホール)

オーガナイザー 三瀨 忠道 (飯塚病院・東洋医学センター・漢方診療科)
小暮 敏明 (群馬大学・医学部・統合和漢診療学講座)

現代医療の中における漢方医学あるいは和漢薬治療の意義にはいくつかの切り口がある。そのひとつとして、現代医学的に難治な疾患に対する治療効果の向上に如何に役立つか、は臨床家にとって興味ある問題である。例えば膠原病やその類縁疾患は、病勢の進行を食い止めるため、ある程度の副作用は覚悟の上で、しばしば免疫抑制剤やステロイド剤が用いられる。しかし、それでも十分な効果を得がたいことも多い。

本シンポジウムでは、強皮症診療における和漢薬の有用性と問題点について、いくつかの角度から検討してみたい。まず現代医学的な立場から、強皮症の病態や治療とその成績などの現状を明らかにしていただく。ついで和漢薬治療の立場から、今日までの成績あるいは今後の可能性を、報告例をまじえて全般的に把握したい。さらに総合診療的立場から、漢方治療の臨床成績を、主にADL改善効果を中心に示していただく。そして強皮症の特異的障害臓器に関連して、皮膚科と呼吸器科領域から、それぞれの専門家に報告していただく。

十分な治療法が乏しいと思われる強皮症に対し、現代医学的治療だけではなく、和漢薬治療を融和させることが、治療成績の向上にどうつながりうるか？ そのための問題点は何か？ 強皮症患者の予後やQOL改善に役立つメッセージを探してみたい。